

# わが街で暮らす

諏訪市地域医療・介護連携推進センター

ライフドアすわの取り組み

地域包括ケアシステムを支える人々

71

新型コロナウイルスの感染  
症法上の位置づけが5類に移  
行してからはじめての年末を  
迎えています。この間、各種  
行事やイベントが、主催者側  
の創意と参加された方々の協  
力によって催されるなど、街  
のここかしこにたくさん賑  
わいを見るのができました  
た。感染症への備えが必要な  
状況は続きますが、高齢者の  
方々の生活の場や通いの場な  
ども、地域における医療、  
介護、福祉の連携と関係者の  
たゆまぬ努力により、さまざま

まな活動や交流の機会が実施  
されています。それぞれの立  
場で地域福祉を担う皆さまに  
感謝を申し上げます。  
現在諏訪市では、令和6年  
度からの3年間を計画期間と  
する高齢者福祉計画の策定に  
取り組んでいます。この計画  
は本市における高齢者福祉行  
政の指針となるもので、20  
00(平成12)年以降は介護  
保険事業計画と整合を図りな  
がら3年ごとに見直しを行っ  
てきました。現行計画(令和  
3年4月〜6年3月)では

「誰もが元気に安心して暮ら  
せるまちづくり」を基本方針  
とし、すべての高齢者の健康  
維持・増進、社会参加の促

## 諏訪市 健康福祉部長

もり や かず のり  
守屋 和則



諏訪市健康福祉部長 守屋和則(前列)、諏訪市高齢者福祉課係長小口隆、諏訪市高齢者福祉課係長宮坂吉郎、諏訪市高齢者福祉課係長有賀恵(後列左から)

「誰もが元気に安心して暮ら  
せるまちづくり」を基本方針  
とし、すべての高齢者の健康  
維持・増進、社会参加の促

進、互いに見守り支えあう地  
域づくりなどを進め、年齢を  
重ねるなかでもそれぞれが感  
じる「幸福(しあわせ)度」  
の向上を目指して計画を推進  
しています。  
次年度からの計画を策定す  
るにあたり、昨年12月に高齢  
者の方々の暮らしの現状と課

題を把握するため、諏訪広域  
連合が長野県と協力して生活  
実態調査を実施しました。そ  
のうち諏訪市在住者分を抽出  
したデータを踏まえて計画づ  
くりを進めていくわけですが  
、コロナ前に行われた前回  
調査(2019年)と比較を  
してみると高齢者の生活や意  
識、コミュニケーションに大  
きな変化が見えてきます。調  
査にご協力いただいた方々の  
うち元高齢者(要支援、要介  
護認定を受けていない65歳以  
上の方)の回答を例にとると  
、新型コロナウイルス感染  
拡大によりやめてしまった習  
慣があると回答した人が全体  
の4割を占めています。ま  
た、人や地域とのつながりや  
外出機会の問いには、感染予  
防などを理由にその頻度は前  
回調査に比べて減少する傾向  
が見られました。さらに「フ  
レイル」ということばの認知  
度は高まっていますが、介護  
予防への取り組みには「意識  
して取り組んでいる」と回答  
した人の割合は減少し、「興

# 「誰もが元気に安心して暮ら せるまちづくり」を目指して

## 諏訪市高齢者福祉計画・介護保険事業計画

**フレイル** 高齢期に心身の機能が衰えた状態  
のこと。健康な状態と、介護が必要な状態の中間の  
段階で、要介護になる危険性が高いと言われてる。

味・関心は特にない」が増加  
していることも気になりま  
す。この調査では、回答者が  
感じている「幸福度」を10段  
階で評価していただきました  
が、幸福度の高低は、その人  
の心身の健康状態や社会との  
つながりと密接な関係がある  
ことから、今後は人口減少・  
超高齢化による社会のひずみ  
が生み出す課題対策にあわせ  
て3年余にわたるコロナ禍が  
及ぼした影響も念頭に置いた  
施策を展開していくことが必  
要となります。  
来年2月頃には新しい計画  
素案のパブリックコメントを  
予定しています。本計画の策  
定・推進には、地域の皆さま  
の参加や意見を積極的に取り  
入れることが重要だと考えま  
すので、ぜひご意見をお寄せ  
ください。あわせて、人生の  
収穫期でもある高齢期を心豊  
かに暮らすことができるよ  
う、引き続き『ライフドアす  
わ』とも連携して地域包括ケ  
アシステムの深化・推進に取  
り組むほか、さまざまな活動  
や参加交流の機会を用意して  
いますので、多くの皆さまに  
ご利用いただきたいと思います。  
(毎月第2日曜日掲載)